



<p>日々の読解の実践で困っていること、うまくいかないと思うこと。 その他、何でも初中級読解に関して、モヤモヤしていること。</p>	<p>左のモヤモヤしていることについて実践において考えるためのヒント (当日の講師の発表内容、および参加者のコメントより)</p>
<p>1) 授業の進め方</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 読むスピードがクラス内で合わない。 全体に質問すると決まった人しか答えない。かといって、個人指名は緊張させてしまう。 速読と精読をどのように組み合わせていくか迷う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回一つの同じ読み方をするのではなく、ペアやグループでの読解活動、ジグソーリーディング、また段落ごとの読解など、学習者のニーズや目的、また特徴などを考慮した上で、よりよい読解活動の方法を検討する。 本文の読解部分は教室外活動とすることも選択肢の一つ。 文章の音声ファイルを利用して、文章の読みを支援することもできる。 https://greatjapanese.jimdofree.com
<ul style="list-style-type: none"> 内容理解(Q&Aによる確認)、指示詞の内容把握が読解活動の目標なのはつまらない。 教室で読解をやる意義(一人でできることも多い→なぜ教師が必要なのか。) 	<ul style="list-style-type: none"> 読解活動の目標を内容理解だけに留める必要はなく、「考えをまとめよう」などで、その理解をもとにした意見の表出や話し合い活動も目標の一つとすることができる。 最後のアウトプットに多くの時間を割いたり、ディスカッションに時間を多く使ったりする。
<p>2) 学生の言語能力、知識</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 知っているはず、勉強しているはずの文法を実践(読解)に活かさない。 語彙力が足りなくて、読み進められない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キーワード」で題材について想起させたり、「読む前に1」で単語についての理解を促進したり、「読む前に2」の中で文章中の単語や文法を積極的に使わせたりすることにより、事前に単語に対する理解を深めることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 選択肢は選べても、自分で正しい答えがまとめられない。 上のレベルになっても、選択問題はできるが記述問題になると本の抜き出しのままだったり、書けなかったりすることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解活動だけではなく、「考えをまとめよう」の部分で十分に時間を取り、内容理解に基づいた自分の意見や考え、経験を語る、もしくは書く作業を行う。 段階や必要に応じて、上記の活動のための表現や文型を提示する。
<ul style="list-style-type: none"> 学生の国が違くと理解する内容も変わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者間の文化的な違いを問題として捉えるのではなく、教室内活動の活性化に繋げられる方法を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 読むことの力と書くことの力が必ずしもリンクしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 弱い力を高めるために、高い力を有効に使う方法を考える。まず読む作業を行い、ディスカッションをし、書く、もしくは、先に内容に関する書く作業や話す作業を十分に行なった上で、読む作業に移るなどが考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> 文法、語彙がわからないのか、文章の内容がわからないのか把握しづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> いきなり読解活動をするのではなく、「読む前に」を利用し、語彙や文法に関する前作業を取り入れ、読解時には内容に焦点が当てられるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> 長文に学習者（特に非漢字圏の）が拒否反応を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読解・聴解チャレンジ」(https://greatjapanese.jimdofree.com) を使って、各自の能力の伸長を可視化、意識化させ、動機の上上に繋げる。3) の内容などを用い、興味関心を高めることも一つの案である。
<p>3) 学生の興味関心</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 男女、理・文系など興味の有無が如実に現れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の興味関心は変わらない部分もあれば、教師の工夫によって高められる部分もある。どのようにすれば、学習者の興味関心を高められるか、読解の内容
<ul style="list-style-type: none"> 興味を持って読める文章がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> だけではなく、そのための前作業や授業の進め方を再検討する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 読解のテーマのおもしろさに欠けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、黒柳の章であれば、「徹子の部屋」を見て、黒柳の特徴についてワークシートに記入させる、キーンの章であれば、自身が学習者であったことなどから
<ul style="list-style-type: none"> 教材（教科書）の話題が学生の実態に合わない。興味関心。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材への親近感を持たせることができる。また、家康であれば、簡単な歴史的背景や現在の学習者の居住地などと結びつけることにより、題材を身近に感じさせたりすることが考えられる。 また、単に読んで理解するのを目的とするのではなく、「考えをまとめよう」を使ってのディスカッションや教室外での調べ学習などを通して、読解・学習を楽ししいものとする方法を検討する。